ＬｉＢ用セパレーター

5年後世界シェア首位へ

湿式のコストダウン実現 耐熱性改善型も開発

ダブル・スコープ

リチウムイオン2次電池（ＬｉＢ）用セパレーターを製造するダブル・スコープ（東京都品川区、崔元根社長）は、湿式セパレーターのグローバル提案を強化する。独自の逐次一軸個別延伸法により、ラインスピードを向上。生産の効率化で一般的な湿式セパレーターに比べ、大幅なコストダウンを実現した。また、このほど耐熱性を改善した高付加価値セパレーターを開発、車載用をメインに訴求する。今後は生産ラインの増強を計画、供給体制を整えることで、5年後をめどにＬｉＢ用セパレーター市場でトップシェアの獲得を狙う。

ダブル・スコープは2005年に日本で創業、韓国に生産拠点を持つ。現在の売上高に占める主要顧客の国別構成は、中国73％、米国23％、韓国4％。中国では主に、民生向けや電動バイクに搭載するＬｉＢメーカーにセパレーターを供給。米国ではＡ123システムズが製造する車載用ＬｉＢ向けとなる。主に正極材にリン酸鉄を使用したＬｉＢとの組み合わせで市場シェアを拡大中だ。同社によると中国市場では10％のシェアを占めるという。

同社製セパレーターの特徴は、安全性の高い湿式でありながら、他社製に比べ割安なコストにある。機械方向と直交方向を個別に延伸する逐次一軸個別延伸法を採用することで、ハイスピードでの広幅延伸が可能。原料となるポリオレフィンフィルムの利用可能な面積を極大化し、量産性を追求した。この結果、時間当たりの生産能力が他社製法に比べ2～3倍を実現。「他社製湿式と乾式の中間の価格で提供が可能」（同社）としている。

製品開発ではこのほど、耐熱性と低電気抵抗を両立したセパレーターを開発。耐熱性を200度Ｃにまで高めた。厚さは10～30マイクロメートルまで対応し、すでにサンプル出荷ずみ。主に電気自動車（ＥＶ）など車載用への提案を強化していく。

また、車載用のほか産業用ＬｉＢも今後の需要増加が確実視されていることから、生産能力の増強に踏み切る考え。韓国の梧倉（オチャン）科学産業団地に設置する製造拠点では、今期中にも新ラインの稼働を予定。また、同拠点でのさらなるライン増強も計画している。

ダブル・スコープでは今後、日本を含めた世界のＬｉＢメーカーへ提案を強化する方針。設計段階からの共同開発で、ＬｉＢのさらなるコストダウンに貢献する意向を示す。5年後をめどに、ＬｉＢ用セパレーター市場でトップシェアを目指す考え。

物出荷

18％減の

32億円